



環境スタートアップ支援に関する環境省の今後の取組

2020年8月

環境スタートアップ施策に関する加藤政務官プロジェクトチーム



イノベーションの創出に向けた環境スタートアップ支援の方向性

- ▶ 持続可能な社会の実現に向け、目指すべきゴールとこのままの延長上の未来（BAU）とには、大きなギャップが存在。そのギャップを埋めるためには、様々な分野でイノベーションを起こし、社会に実装していくことが必要。
- ▶ 近年、我が国においても、環境問題解決にインパクトを与え得るユニコーン企業が出現。イノベーション創出の担い手として重要性が増しているスタートアップへの支援に注力し、未来に向けたイノベーションの創出を加速化することが重要。

- 関連施策を連携させ、**成長ステージに応じた切れ目のない支援**を行うことにより、**新たなロールモデルを創出**
- ロールモデルを核に環境スタートアップの**コミュニティの形成・拡大**を図り、自律的・連続的に創出・成長が繰り返される**エコシステム構築**を目指す



1. Green Startup Pitch（仮称）の開催

- 環境スタートアップを対象としたピッチコンテストを開催。審査を通過した将来有望な環境スタートアップに対して環境大臣賞等を授与。
- 併せて、活躍中の環境スタートアップ等によるパネルディスカッション等を行い、環境スタートアップのコミュニティ形成を促進。

2. 次世代へのアントレプレナー教育・育成

- 未来を担う次世代をターゲットとし、高専生向けのビジネスコンテストや、若手起業家へのインキュベーションプログラムを実施。

3. 環境スタートアップと地域とのマッチング

- ローカルSDGsPFにおける企業等登録制度を活用して地域とのマッチングを促進。地域の将来ビジョン策定段階から具体的な事業へと、バックキャスト的に支援。

4. 環境省の調達における入札参加資格の拡大

- 環境省における総合評価落札方式にて実施する調査事業等について、環境スタートアップの入札参加が可能となるよう、内部ルールを改正。

參考資料

- 環境分野のスタートアップに光を当てるピッチコンテストを開催。将来有望な環境スタートアップへの表彰等により、新たなロールモデルを創出するとともに、事業機会の拡大を支援
- ピッチコンテストに併せて、活躍中の環境スタートアップ等によるパネルディスカッション等を行い、環境スタートアップのコミュニティ形成の場としても活用

プログラム（イメージ）

◆ キーノートスピーチ

✓ 海外有名スタートアップの招聘等により、地球規模の環境問題も視野に取組の機運を醸成

◆ ピッチ&表彰式

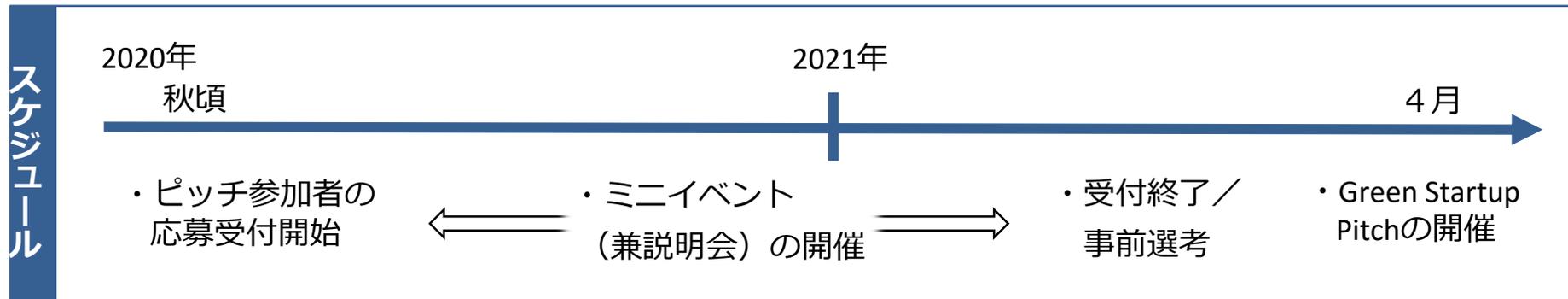
✓ 審査員（現役経営者、vc等）による審査を経て、優秀者に環境大臣賞等を授与

◆ パネルディスカッション

✓ 活躍中の環境スタートアップ、金融・支援関係者、自治体等により、課題や必要な取組等を議論

◆ ネットワーキング（名刺交換等）

※イベントの様子を動画配信し、国内外に広く発信



- 今の10代～30代（ミレニウム世代、Z世代）は、30年後（2050年）の未来を生きる当事者であり、デジタルネイティブとして地球規模で起こっている環境・社会課題を身近に、自分事として認識。
- 持続可能な社会の実現という長期かつ困難な課題に取り組むには、イノベーションの着火剤として、未来を担う次世代の力が必要不可欠。

高専生ビジネスアイデアコンテスト for SDG s

- 高い技術力と専門性をもちイノベーションの原動力となりうる高専生に志をとす教育として、
 - SDG s 達成をテーマに、ものづくり精神と熱意に溢れる高専生を募集し、ビジネスアイデアを競うコンテストを開催
 - 課題を持つ地域との交流・マッチングを図り、実際のプロダクト開発の足掛かりに
- 来年度の本格実施に向け、**今年度、東北ブロック開催を試行的に実施。**



若手起業家へのインキュベーションプログラム

- 2050年に向け、社会の変革者（トランスフォーマー）としてビジネスモデルを考え出せる若者の発掘・育成を目的に、
 - 環境・社会課題の解決を目指す若手の起業家、これを支援するインキュベーター（現役企業経営者、専門家等）を公募
 - 若手起業家とインキュベーターをマッチングし、メンター陣からビジネスモデル構築や組織運営等をアドバイス。
- **今年度は、対象地域**（昨年度：福島県、福岡県）**を全国に拡大して実施。**



目的

環境省ローカルSDGsの趣旨や目的に賛同していただける民間企業、協同組合、社団法人、財団法人、NPO、金融機関（企業等）に登録してもらい、**地域と企業等の協業（＝事業）**により、**地域の課題解決とSDGs経営の実現**を推進し、**全国各地においてローカルSDGsの創造を加速**させる。



パートナー企業等

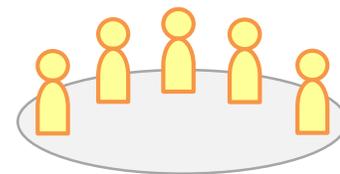
- ・技術・ソリューション単位でも登録可
- ・SDGs経営の課題解決やビジネスのタネを生み出すオープンイノベーションの場として活用

マッチング



情報提供

- ローカルSDGsビジネス※の実現に向けた知見や技術の提供や実践地域との交流**
 - オンライン・オフラインにおけるマッチング支援
 - 環境省が主催するシンポジウムや勉強会等の開催
- 企業同士の学びあいやネットワークづくり**
 - 地域循環共生圏フォーラムや企業間ワークショップ等の開催
- 地域循環共生圏に関連した他省庁の情報提供や意見交換の場づくり**
 - 定期的なメールマガジンの配信
 - 環境省が主催するシンポジウムに他省庁も招へい



実践地域

78団体
(2020年7月17日時点)

※ローカルSDGsビジネス：
 ①地域資源を活用し、地域内で資金、エネルギーや食などが循環している
 ②地域間で補完し支え合いの関係が構築できている
 ③環境を含むそれぞれの地域課題を解決し、自立分散型の社会づくりにつながる

スタートアップ×地域の協業事例：地産の再エネを活用した脱炭素型EVカーシェアリング



< (株)REXEV × 湘南電力(株) × 神奈川県小田原市 >

- ・(株)REXEVは小田原市に事業中核拠点を置くスタートアップ（2019年設立）
- ・地域電力会社である湘南電力、地元自治体である小田原市と連携し、再生可能エネルギーと動く蓄電池である電気自動車を活用した、EVシェアリングによる地域交通モデルの構築を推進

資料提供：(株)REXEV

<現状>

- 起業間もないスタートアップ（入札資格等級D※）が入札に参加できる事業は、原則として、小規模の事業（300万円未満の役務等）に限定されている。
※国の入札では、経営規模等により各企業に入札資格等級（A～D）が付与されている。
- これまで、「技術力ある中小企業者等」については、入札資格等級A～Dの如何にかかわらず、全ての規模の事業への入札参加が可能となるよう、政府統一方針の改正により、当該中小企業者等の定義の拡大がはかられてきたところ。

<今回の改正>

- ✓ 入札参加機会の更なる拡大により、環境スタートアップの事業活動への支援を一層進めるべく、**環境省における総合評価落札方式（※）にて実施する調査事業等について、環境スタートアップを含む資格等級D企業の入札参加を可能とする。** <2020年9月1日（火）ルール改正予定>

※総合評価落札方式：価格点・技術点の合計点で落札者を決定

